

柳瀬善治 Yoshiharu Yanase

最高學歷： 日本廣島大学大学院社会科学研究所科学術博士

職 稱： 助理教授

専長學科： [1]日本文學（近代） [2]國際社會論
[3]日本思想文化 [4]文學、文化理論

學位論文：

1. 柳瀬善治 (1998/3/25)。『近代日本文学におけるロマンティズムとナショナリズム』。博士論文，廣島大學大學院社會科學研究科，日本廣島。
2. 柳瀬善治 (1994/3/25)。『昭和のロマンティズム試論 保田與重郎と三島由紀夫を中心に』。碩士論文，廣島大學大學院社會科學研究科，日本，廣島。

著作目録

A. 期刊論文：

1. 柳瀬善治 (2009/11)。第 3 回戦後文化運動合同研究会 第 28 回原爆文学研究会 合同研究会 二日目午前の部 印象記。『原爆文学研究会会報』第 28 号，第 28 號。
2. 柳瀬善治 (出版中)。「紹介 青山学院大学文学部日本文学科編『異郷の日本語』」。『日本近代文学』第 81 集，第 81 號。
3. 柳瀬善治 (2008/12/20)。遂行的な憑依あるいは分有される単独 一つの方法的批評の試み。「原爆文学研究」，第 7 號，頁 93 -103 。
4. 柳瀬善治 (2008/9/30)。「テロリズム・ナショナリズム・ポストコロニアリズム (IV) 一声の分有・散種といふ」。『日本学と台湾学』，第 7 號，頁 125 -158 。
5. 柳瀬善治 (2008/2/15)。「特集 島文学事典 担当箇所 伊勢志摩」。『絃説』，第 3 號，第 2 集，頁 15 -17 。
6. 柳瀬善治 (2007/12/14)。「『概観的な時代』の「終末」と「民族的憤激」—三島由紀夫における原爆表象—」。『原爆文学研究』，第 6 號，頁 54 -70 。
7. 柳瀬善治 (2007/9/30)。「テロリズム・ナショナリズム・ポストコロニアリズム III—集合性と情動の組織化、あるいは」。『日本学と台湾学』，第 6 號，頁 120 -143 。
8. 柳瀬善治 (2007/7)。書評 松尾慎『台湾における言語選択と言語意識の実態』。『東海大學文學院報』，第 48 輯。
9. 柳瀬善治 (2007/6/23)。「恥辱・受動性・集団の橋—情動と集合性に関するノート 1—」。『三重大学日本語学文学』，第 18 輯，頁 53 -74 。
10. 柳瀬善治 (2007/3/10)。書評 「綾目広治 『抵抗と批判 日本文学と国家・資本主義・戦争』 (御茶ノ水書房)」。『日本文学』，第 56 號，第 3 集，頁 102 -104 。
11. 柳瀬善治 (2006/10/31)。「書評 鈴城雅文『原爆=写真論』 (窓社)」。『原

- 爆文学研究』，第5號，頁58-64。
12. 柳瀬善治 (2006/10/31)。「複数・可塑性・倫理—表象不可能性とイメージをめぐるノートⅡ—」。Problematique，第7輯，頁37-50。
 13. 柳瀬善治 (2006/9/30)。「テロリズム・ナショナリズム・ポストコロニアリズムⅡ—文化批評と社会理論の臨界—」。日本學と台灣學，第5號，頁142-177。
 14. 柳瀬善治 (2006/6/20)。「三島由紀夫における「闘争のフィクション」—ポクシングへの関心から見た戦略と時代へ—」。『三島由紀夫研究』第2号，第2號，頁113-138。
 15. 柳瀬善治 (2006/4/22)。「書評「坪井秀人『戦争の記憶をさかのぼる』ちくま新書」」。『日本近代文学会東海支部会報 第6号』，第6號，頁10-12。
 16. 小沢節子，直野章子，田崎弘章，柳瀬善治，川口隆行 (2006/3/1)。「原爆をどのように語りうるか—原爆を描くこと、受容することをめぐって—」(シンポジウム)。『原爆文学研究』増刊号，頁2-66。
 17. 柳瀬善治 (2005/10/31)。「武久 康高『枕草子の言説研究』(笠間書院)の読後感を起点として〈言説分析〉について考える」。Problematique，第6號，頁25-53。
 18. 柳瀬善治 (2005/9/30)。「テロリズム、ナショナリズム、ポストコロニアル(I) 9・11以後の文化批評の陥穽と課題—」。日本學と台灣學，第4號，頁115-147。
 19. 柳瀬善治 (2005/8/31)。「原爆文學研究への一補助線—表象不可能性とイメージをめぐるノート1—」。原爆文學研究，第4號，頁93-108。
 20. 柳瀬善治 (2005/7/10)。「子午線」「同時進行の包摂と解体、それに伴う遅延と盲点」。日本文學，第7月号號，頁72-73。
 21. 柳瀬善治 (2004/7/31)。「〈テロル〉の時代における「大逆」の表象とその限界—権力批判の臨界、あるいは「複数」を支える「法」とは何—」。Problematique，第5號，頁20-41。
 22. 柳瀬善治 (2003/7)。「ブックガイド F・ジェイソン「時間の種子」」。國文學解釈と教材の研究，第8月号號，頁122-124。
 23. 柳瀬善治 (2002/12/30)。「戦前期における「回教」をめぐる言説研究序説—同時代「文學者」との接点を軸に—」。近代文學試論，第40號，頁156-167。
 24. 柳瀬善治 (2002/7/1)。「ドイツ法學・日本法理學・法の詩學—近代法學史に映した保田與重郎—」。Problematique，第3號，頁81-113。
 25. 柳瀬善治 (2002/6/24)。「明治大正期の植民地思想形成への一試論—ポール・ルロア=ポーリュウ受容の諸相—」。三重大學日本語學文學，第13號，頁67-93。
 26. 柳瀬善治 (2002/5/15)。「展望—研究季評—世俗的批評の〈神學的次元〉—「九・十一」・「複数の戦後」—」。日本近代文學，第66集，頁242-248。
 27. 柳瀬善治 (2002/3/1)。「研究動向—渋谷龍彦—」。昭和文學研究，第44集，頁162-165。

28. 柳瀬善治 (2001/6/24)。テロルにおける倫理の表象可能性—三島由紀夫の「ドグマティック」—。 三重大學日本語學文學，第 12 號，頁 75 -101。
29. 柳瀬善治 (2001/3/31)。研究動向—三島由紀夫。 文學・語學（平成 11 年度全國語學文學界動向特集号），第 169 號，頁 98 -99。
30. 柳瀬善治 (2000/5/15)。記憶する男・記憶をつかさどる女・記憶の絶滅—三島由紀夫の「記憶の編成」—。 日本近代文學，第 62 集，頁 112 -127。
31. 柳瀬善治 (1999/6/27)。「暁の寺」論・芸術＝救済の否定。 三重大學日本語學文學，第 10 號，頁 139 -159。
32. 柳瀬善治 (1998/6/28)。私小説という美学イデオロギー・中村光夫「風俗小説論」の戦略。 三重大學日本語學文學，第 9 號，頁 77 -98。
33. 柳瀬善治 (1997/12/31)。転向論における記者的姿勢(下)磯田光一「比較転向論序説」における戦略の脱政治性。 國文學攷，第 156 號，頁 1 -14。
34. 柳瀬善治 (1997/12/25)。衛生・身体・首都—幸田露伴「一国の首都」を中心に。 近代文學試論，第 35 號，頁 39 -53。
35. 柳瀬善治 (1997/9/30)。転向論における記者的姿勢(上)・磯田光一「比較転向論序説」における戦略の脱政治性。 國文學攷，第 155 號，頁 29 -40。
36. 柳瀬善治 (1997/5/15)。異文化間の「架橋」と「日本」の浮上—保田與重郎における西欧の<アウフヘーベン>。 日本近代文學，第 56 號，頁 149 -163。
37. 柳瀬善治 (1997/4/1)。『日本近代文學會會報 八十六 秋季大會（二日目午前の部）印象記』。 日本近代文學會會報，第 86 號，頁 17 -18。
38. 柳瀬善治 (1996/12/25)。「絹と明察」・「月澹莊綺譚」・「天人五衰」—認識を越えるものの表象について。 近代文學試論，第 34 號，頁 66 -78。
39. 柳瀬善治 (1995/6/4)。豊饒の海論 2—「奔馬」を中心に—優雅の政治學とその臨界点—。 三重大學日本語學文學，第 6 號，頁 61 -80。
40. 柳瀬善治 (1995/3/20)。保田與重郎のイロニー的変遷—ペースメーカーとしての雑誌「コギト」。 日本研究（廣島大學総合科學部日本地域研究研究室），第 9 號，頁 39 -59。
41. 柳瀬善治 (1993/5/30)。「春の雪」論—あるいは空虚としてのみやび—。 三重大學日本語學文學，第 4 號，頁 89 -97。

B. 會議論文：

1. 柳瀬善治 (2009/8/19-2009/8/20)。「『反復される不可能』あるいは『小説の終焉』—三島由紀夫の小説観と 60 年代日本の文学概念の変容—」。日本「60 年代文学研究会」主催・輔仁大学日本語文学科共催主辦，日本「60 年代文学研究会」主催・輔仁大学日本語文学科共催シンポジウム「日本近代文学とサブカルチャーの境界」。台湾 輔仁大学。
2. 柳瀬善治 (2009/6/27)。「台湾図書館所蔵 変態性欲文献調査 中間報告」。メタモルフォーゼ研究会主催，メタモルフォーゼ研究会第 30 回例会。日本 名

古屋大学。

3. 柳瀬善治 (2009/1/9-2009/1/11)。「翻訳理論と漢字文化圏—翻訳の倫理から齟齬の露呈へ—」。中国 浙江師範大学主辦，中国 浙江師範大学 国際シンポジウム「近代化社会とコミュニケーションの技法—漢字文化圏の比較研究」。中国 浙江師範大学。
4. 柳瀬善治 (2008/4/21)。「漢字・浪漫・他者—戦後文芸批評家のロマン主義論と漢字文化圏の問題—」。三重大学人文学部主辦，国際シンポジウム「近代化社会とコミュニケーションの技法—漢字文化圏の比較研究」。日本 三重大学人文学部。
5. 柳瀬善治 (2005/9/10)。「「原爆」をどのように語りうるか 原爆を描くこと、受容することをめぐって」。原爆文學研究會 16 回大會（九州大學 P & P プログラム「九州という思想」と共同開催）（頁 2-69）。日本 九州大學：九州大學 與 原爆文學研究會。
6. 柳瀬善治 (2003/5/24-2003/5/25)。テロルの時代における「大逆」の表象。日本近代文学会主辦，日本近代文学会 2003 年度春季大会。日本 和洋女子大学。
7. 柳瀬善治 (2002/9/14)。戦前期における「回教」をめぐる言説—横光文学の余白に—。横光利一文学会,日本近代文学会東海支部主辦，横光利一文学会第三回研究集会。中京大学（日本近代文学会東海支部と合同開催）。
8. 柳瀬善治 (2001/6/2)。ドイツ法学・日本法理学・法の詩学—近代法学史に映した保田與重郎—。文学・思想懇話会主辦，文学・思想懇話会第六回大会。京都学生研修会館。
9. 柳瀬善治 (2000/6/3)。テロルと権力の表象可能性—三島由紀夫におけるドグマティックとパフォーマンス—。昭和文学会主辦，昭和文学会 2000 年度春季大会。相模女子大学。
10. 柳瀬善治 (1996/5/25-1996/5/26)。異文化間の「架橋」と「日本」の浮上—保田與重郎における西欧の『アウフヘーベン』—。日本近代文学会主辦，日本近代文学会 1996 年春季大会。日本 立教大学。

C. 書籍：

1. 柳瀬善治 編著 (2001/3/30)。「言論の自由」と「文化的天皇」—〈文化防衛論〉における「表現」と「倫理」の問題—,三島由紀夫の表現。日本：勉誠出版。
2. 柳瀬善治 編著 (2000/11/25)。三島由紀夫事典。日本：勉誠出版。
3. 柳瀬善治 編著 (2000/10/20)。昭和十年代における「浪漫主義的言明」の諸相，近代の夢と知性。日本：翰林書房。
4. 柳瀬善治 (2000/1/31)。新研究資料現代日本文学第二巻—小説Ⅱ。日本：明治書院。

D. 研究報告（研究計畫）：

1. 柳瀨善治 (2008/8/1 - 2009/7/31)。 雜誌媒體與口承文藝中有關兩性文化之表象--以 20 世紀前半的台灣為視點-- (靜宜大學，PU97-11100-B04)。

H. 學術榮譽與活動：

1. 柳瀨善治 (2009/3/13)。『台湾日本語学文学会』25。投稿論文審査。
2. 柳瀨善治 (2008/12/17)。 東海大学文学院日文系。碩士論文副査（横川彰）。
3. 柳瀨善治 (2007/9/19-2009/9/19)。『台湾日本語学文学会』22 号。投稿論文審査。
4. 柳瀨善治 (2007/5/19)。 靜宜大學日文系。靜宜大學 2007 年[日本學與台灣學]國際學術研討會 A 會場セッション 3 主持人。
5. 柳瀨善治 (2006/5/20)。 靜宜大學日文系。靜宜大學 2006 年[日本學與台灣學]國際學術研討會第 1 會場セッション B 主持人。
6. 柳瀨善治 (2005/8/1-2006/7/31)。『靜宜語文論叢』。編集委員。
7. 柳瀨善治 (2005/5/21)。 靜宜大学日文系。靜宜大学日本語文学系 2005 年中部地区日本研究學術討論会第 3 セッション 主持人。
8. 柳瀨善治 (2004/8/1- 迄今)。『日本学と台湾学』 靜宜大學。編集委員。